

第2次 ふくいの食育・地産地消推進計画

○新たな計画の全体イメージ

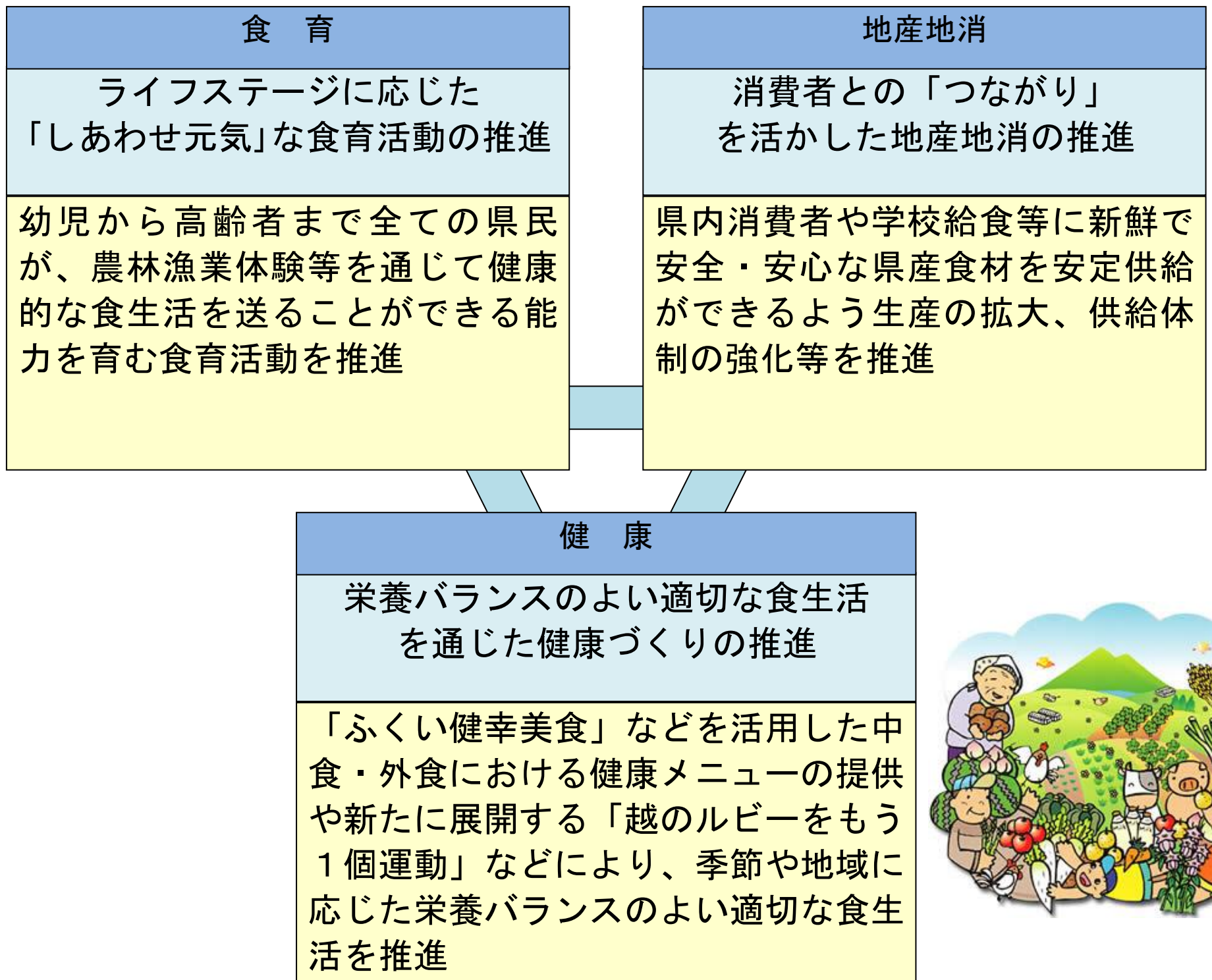
《基本理念》

「ふくいの食を通じて健康で豊かな生活を実現する」

《活動方針》

「福井しあわせ元気国体」が開催される平成30年に向けて、県民誰もがおいしく、楽しく、うれしい健康的な生活をおくることを目指します。

県民みんなで「そだてる」「たべる」「つくる」ふくいの食



1 ライフステージに応じた「しあわせ元気」な食育活動の推進

《主な推進項目》

①妊産婦のいる家庭や就学前の子どもをもつ家庭への食育活動の強化

- ・妊産婦のいる家庭や就学前の幼児とその保護者を対象に、農業体験や調理体験を通じて味覚や食の大切さを学ぶ機会づくりを促進

②畑作体験や直売所を活用した小学校、中学校における農林漁業体験等の拡充

- ・小学校では、畑作体験等を行う学校給食畑を全校で実施するなど、PTAや地域の生産者などの知恵や技を生かして、農林漁業体験や味噌などの加工体験を推進
- ・中学校では、収穫物の仕分けや直売所での体験活動など新たな支援メニューを拡充

③スポーツをする子ども達と保護者、指導者等への食育指導

- ・特に中学生を対象に栄養教諭が中心となり「運動と栄養」についての指導を充実
- ・競技スポーツを行う児童、生徒の保護者、指導者を対象に栄養管理の指導等を推進

④家庭・地域における食育活動の推進や食育リーダーの育成

- ・「早寝早起き朝ごはん」運動などを通じた子育て世代や地域の活動を活かし、朝食の摂取や家族、友人との共食など基本的な生活習慣づくりを推進
- ・地域に密着した活動を行う食育リーダーを新たに育成し、成人男性や高齢者等向けの食育活動を拡充

⑤「おいしいふくい食べきり運動」の推進

- ・全国大会開催に向け「おいしいふくい食べきり運動」を実施する団体や地域を拡大
- ・飲食店やスーパーに加え、ホテルにおいても、食品ロスを減らすための働きかけを強化

⑥「和膳」や「和食給食」の推進と「和食」による福井の魅力の発信

- ・小中学校において、和食を取り入れたおいしい学校給食を導入するとともに、地場産食材や伝統工芸品の器や箸の使用を通じて、和食文化を守り育てる教育を推進
- ・世界無形文化遺産登録に寄与した本県の「食育」「食守」「和膳」を活かした本県の食文化を県民全体で継承し、普及・発展させる活動を推進
- ・食の歴史への深い関わりや他地域にない食文化を持つ本県の「食」や「食文化」を、食の旬として全国へ発信



福井国体のマスコット
キャラクター「はぴりゅう」



おいしい食べきり運動
キャラクター「のっこさん」



越前漆器を活かした学校給食（鯖江市）

2 消費者との「つながり」を活かした地産地消の推進

《主な推進項目》

①消費者が求める身近な園芸品目の生産拡大

- ・新たに園芸を始める集落営農組織等により、トマトやキュウリ、タマネギ、ニンジン等の品目の生産を拡大
- ・古くから地域に根付く在来果樹のミカン、ビワに加え、三里浜砂丘地や嶺南地域を中心にブドウ、イチジク等の新植を支援

②学校給食における県産食材の供給強化

- ・サトイモやラッキョウ、ウメなど本県の特産物や地元の食材を活用した和食給食を推進
- ・県産の農林水産物や加工品等の学校給食における利用を拡大し、全国のモデルとなる給食メニューを開発
- ・新たな園芸生産を活用し、学校給食で利用できるタマネギやニンジン等の品目の供給を拡大
- ・学校と生産者グループ等が協力しながら、保冷設備等農産物への集荷を進める仕組みを強化し、学校給食向けの供給を拡充

③直売所・量販店等における直販活動の活性化

- ・ブドウやイチジク等の果物をはじめ、採れたて、新鮮、食べごろな野菜や地場産食材を活かした加工品の品揃えを充実
- ・農産物直売所における週末の午後の品揃えを増やすための集荷体制の確立
- ・地場産品の販売に新たに取り組む量販店を発掘し、「地場産コーナー」の設置を促進

④6次産業化に取り組む農業者等の支援や地域特産物の利用拡大

- ・JAや企業、観光関連業者などの専門力を結集し、6次産業化を進める認定農業者や漁業者グループ等の商品開発を支援
- ・いぶして風味の増した「今庄のつるし柿」や山斜面の焼畑育ちの「河内赤カブ」など福井の風土を生かした伝統の農林水産物等を認証し、生産や販売を拡大
- ・くずやナツメ等里山の特産品の育成・活用の促進や薬草の実証研究を推進
- ・「ふくい 味の祭典」において本県の伝統ある和食文化や地場産の食材、加工品のPR活動を行い、地産地消に対する県民意識を向上



ふくいの農林水産物



大規模直売所における青果物の販売

3 栄養バランスのよい適切な食生活を通じた健康づくりの推進

《主な推進項目》

①□ 豊富な食材を活かした「ふくい健幸美食」による適切な食生活の推進

- ・メタボリックシンドロームおよび生活習慣病を予防するため、家庭でのバランスの良い食事を普及啓発するとともに、外食・中食（調理されたものを持ち帰り家で食べること）でも健康に配慮した食事ができる環境を推進します。
- ・主食・主菜・副菜がそろった低塩分で野菜たっぷりの定食や、煮物の味付けや揚げ物の衣を工夫した惣菜を「ふくい健幸美食」と認証し、飲食店や社員食堂、スーパーマーケットでその提供を促進します。

②「越のルビーをもう1個運動」など県産野菜食の推進

- ・県内各地域の量販店等において、野菜摂取量350g以上/日（成人）を目指し、「越のルビーをもう1個運動」「鍋で味わう野菜食運動」など食育や地産地消と組み合わせた健康づくりの視点からの県民運動を展開

③生涯にわたる健康教育や給食施設における適切な栄養管理・食事管理の推進

- ・歯科保健対策や食品の表示、衛生対策など県民に対する生涯にわたる健康教育を推進
- ・給食施設の利用者に応じた適切な栄養管理・食事管理に基づく給食の提供を推進



中食における「ふくい健幸美食」の取り組み



本県で開発されたミディトマト「越のルビー」

○現計画（H21～H25）の成果

・目標の達成状況

項目	現況	目標	実績	結果
1 食べものをありがたくいただく気持ちの醸成				
食育ボランティアの活動回数	1,284回 (H20)	2,000回	2,190回 (H24)	達成
伝承料理をよく食べる人の割合	20.7% (H20)	30%	66.6% (H21)	達成
農産物の収穫時期がわかる人の割合	48.0% (H20)	60%	66.3% (H21)	達成
親子や家庭での魚がさばける福井人養成講座参加数	新規	300家族	360家族 (H23)	達成
2 おいしく安全な食を提供する地産地消の推進				
学校給食地産食材使用率（重量ベース）（6月） 見直し （6・11月平均）	31.5% (H20)	35%	35.4% (H21)	達成
	37.2% (H22)	40%	35.3% (H25)	
大規模農産物直売所の販売額（8直売所） 見直し （3千万円以上）	13.7億円 (H19)	16億円	19.3億円 (H22)	達成
	26.1億円 (H22)	29億円	29.3億円 (H24)	達成
米粉の使用量	30.0t (H20)	100t	100.7t (H24)	達成
とれたてふくいの日認知度	18.2% (H20)	30%	30.7% (H21)	達成
消費世帯における購入に占める県内産品の割合 追加	38.4% (H21)	39.3%	39.2% (H23)	
3 健全で豊かな食生活の実践				
野菜摂取量／日（20歳以上）	296.3g (H18)	350g	311.9g (H23)	
朝食欠食率（男性） （女性）	25.3% (H18)	15%未満	33.3% (H23)	
	18.2% (H18)	9%未満	12.7% (H23)	
10項目（1項目を追加）				7項目

○新たな計画の目標

- ・県民誰もが、おいしく、楽しく食べて、うれしい健康的な生活を実現するため、今後の5年における目標を次のとおり設定

項目	現況	目標
食育		
小・中学校における農林漁業体験学習の実施校の割合	85% (H24)	90% (H30)
・小学校の畑作体験学習	未実施 24校 (H25)	全校実施 (H30)
家庭における食育の実施状況 (早寝早起き朝ごはん運動等実施家族数)	7,248 家族 (H25)	10,000 家族 (H30)
地産地消		
学校給食地場産食材使用率 (重量ベース)	35% (H25)	50% (H30)
大規模農産物直売所の販売額 (5千万円以上)	27 億円 (H25)	30 億円 (H30)
家庭における地元の食材の利用状況 ・優先的に購入する人の割合	40% (H24)	50% (H30)
園芸生産額の拡大	140 億円 (H25)	180 億円 (H30)
健康		
野菜摂取量/日 (20歳以上)	311.9 g (H23)	350 g (H29)
食塩摂取量/日 (男性)	11.8 g (H23)	9.0 g 未満 (H29)
(女性)	10.0 g (H23)	7.5 g 未満 (H29)
民間等の活動		
食育・地産地消・健康づくりを進める店舗・団体数 ・おいしいふくい食べきり運動協力店 ・ふくい食育・地産地消応援団 ・ふくい健幸美食の提供店舗	1,086 店舗 (H24)	1,500 店舗 (H30)
10項目		